

平成26年度（第13期）事業計画書

（平成26年6月1日から平成27年5月31日まで）

特定非営利活動法人 東上まちづくりフォーラム

1. 事業実施の方針

現在、進行中の各プロジェクトにおける今年度の活動予定は、後段にある活動計画表に譲るとして、ここでは東上まちづくりフォーラムの全体を見渡した上での、今年度の計画について述べることにする。

まず、発足から数えるとすでに5年という単位で活動を継続してきている「お手伝い隊」の活動は、東上まちづくりフォーラムの全体像を考える上で、落とす事のできない重要な位置づけとなっている。

すでにお手伝い隊の人数は、有償ボランティアという形でお手伝いをしてくださる人たちの人数は120名程、また利用会員数は300名弱に達している。WAM（（独）福祉医療機構）の助成を昨年度から受けて高齢者層の溜まり場「交流サロン」との連携したハッピー事業のなかに位置づけて、事業を継続してきているが、「お手伝い隊」だけを見たときには自立して継続事業（コミュニティビジネス）として存続していくことは、現状の経理面でのデータから見たときには難しいのが現状である。

すでに長年の歴史と、多くの方々に利用されているこの事業をどのようにして、今後継続していくかは、東上まちづくりフォーラム一団体の案件というよりもこの地域全体の案件とでも言えるレベルに達しているかとも思われる。

お手伝い隊に関わっている登録者の方々に、東上まちづくりフォーラムの会員としても登録してもらいたいのではないか、という話は、前々から理事会でも話題となっているが、年1万円の会員にはなってもらう事は難しいのではないか、という事でその話は先へは進まない。一方、東上まちづくりフォーラムの正会員の方々の中にも、なかなか活動にご参加いただけない方もいたり、また会員減少傾向でもあるので、年会費を減額してはどうか、といった意見も出るが、これについても正会員は限られた少数で会の運営に参画されるという意思をお持ちの方だけでいいのではないかと（よって会員はごく少数でもいい）といった意見もあり、とくにその話が先に進んだわけではない。

現時点で、理事会でも決定している事柄は、「お手伝い隊」の方々とコミュニケーションの場を設け、その方々の意向もお聞きした上で約1年をかけて、今後の方針を立てていく」というものである。たとえば「志木市見守りシステムの説明会」を開催するといった場を設けて、正会員、理事会と「お手伝い隊」の方々とがコミュニケーションできる場を設定するといった事である。

その場自体は、東上まちづくりフォーラム正会員と「お手伝い隊」の方々とコミュニケーションの場であるが、そこでの内容を踏まえて、東上まちづくりフォーラムとしての今後の方向性を、正会員の方々と検討を深めていく事が、この1年間における計画となる。

上記のような正会員の皆様方との検討の場は、原則毎月開催している月例会での場となっていくと思われるが、その際には今まで述べてきた「お手伝い隊」の事だけでなく、他の案件も含めての議論がもちろん期待できる。

他の案件とは、「第1号議案平成25年度事業報告書」や下記表に記した各案件である。

「障害者就労施設・シニア世代連携事業」は、本年度が、3年間の委託事業の集大成となる年度であるが、すでに障がい者の就労支援施設で作られた製品を販売する、販路を拡大するという点においては、様々な角度からの成果をあげてきている。

障がい者支援ということでは、「障がい者・高齢者支援プロジェクト（ハート・プロジェクト）」は、上記プロジェクト以上の年月をかけてこつこつと成果を積み重ねてきている分野である。

そしてそうした各プロジェクトのベースとなっているのが、平成19年度の発足以来すでに7年に及ぶ「ビジネス助っ人隊」の活動である。

「ビジネス助っ人隊」としては、コンサル助っ人隊とはじめ、IT関連の助っ人隊などが動いており、案件を受託した場合に、それをメンバーで遂行していくという形での「中高年SOHOエージェント」機能をもって現在に至っているが、こうした中高年層、企業OB層に地域内での活躍の場を提供する団体の役割は今後とも必要性を増すとと思われる。

東上まちづくりフォーラムでは、12年前の発足時から、会員となった方が「こうした事をやっていきたい」という案件を、プロジェクトとして具現化できるようになる仕組みを作る、という方針のもとで活動を行ってきた。現時点でも、そのような枠組みのなかで「にぎわいプロジェクト」、「住まいと地域の絆プロジェクト」などが活動を行っている。また数多くのプロジェクトがその仕組みのなかで作られ、その役目を終えていった。

今後もそうした基本の枠組みに変化はないが、以前からの課題は、多くの方々（例えば企業OBの方々）が、すぐに自らプロジェクトを起こしていこう、と思うようにはならない、という点であり、東上まちづくりフォーラムとしては、ある種の「プロジェクト・インキュベーション」機能を持つ事が必要なのではないか、という点である。この点については今後とも検討していく課題である。

話を戻せば、この1年をかけて行っていく作業は、「お手伝い隊」の今後の方向性を、「ビジネス助っ人隊」はじめ他のプロジェクトとの関連のなかで、探っていくという点にある。

そこでのキーワードは、すでに活動を行っている案件（プロジェクト）から抽出される以下のようなキーワードとなる。

- －中高年層の活躍の場
- －中高年SOHOエージェント機能
- －埼玉都民の地域での居場所づくり
- －障がい者の就労支援
- －障がい者や高齢者等のサロン機能
- －障がい者・高齢者向けIT支援
- －「とくとく市民大学」の成果も引き継いだパッヒーサロンでの各種講座の展開
- －商店街の活性化
- －店舗運営「ふるさと屋」
- －地域でのイベント立上げ等にぎわいの創出（にぎわいプロジェクト）
- －住まいと地域の絆
- －マンション管理組合支援
- －志木市見守りシステム

12年の活動を通じて蓄積してきた資源と、「お手伝い隊」の資源をどう組み合わせ、また東上まちづくりフォーラムの（発足の理念に裏打ちされた）仕組み・枠組みをどう整合させていくか、といった点が、この1年間で私達に課せられた検討課題である、と考えている。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係わる事業

事業名	事業内容	実施予定日	実施予定場所	従事者の予定人数	受益対象者の範囲および予定人数	支出見込み額（千円）
地域資源の再発見と人材開発の場の	「ビジネス助っ人隊」事業	通年	埼玉県全域	30人	地元企業やNPO法人（約100社）	1,650

提供	障がい者就労施設・シニア世代連携事業	通年	埼玉県全域	5人	地域の作業所	5,900
まちづくり提案とプロジェクト活動	交流サロン・お手伝い隊連携ハッピー事業	通年	志木市、新座市	10人	対象者 200名、ボランティア 100名	4,000
	ハートプロジェクト（障がい者・高齢者 IT 支援）	通年	埼玉県全域（出張研修可能）	10人	障がい者・高齢者 100人、その支援団体（20団体）	400
	その他のプロジェクト	通年	東上線沿線を中心とした埼玉県全域	50人	市民層	-
住民交流の場づくり	にぎわいプロジェクト	通年	埼玉県南西部	10人	埼玉県南西部、特に志木市の商店街	120
	住まいと地域の絆プロジェクト	通年	埼玉県南西部	5人	埼玉県南西部 NPO、住民	0
上記事項に関する情報提供事業	ホームページ、展示会、活動案内チラシ	通年	東上まちづくりフォーラム事務局	3人	-	30
その他目的を達成するために必要な事業	必要に応じて実施	通年	東上まちづくりフォーラム事務局	-	-	-

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施予定日	実施予定場所	従事者の予定人数	支出見込み額（千円）
地域物品等の販売	地域商品の販売	通年	志木市、新座市	4人	4,000
中小企業、非営利活動法人の経営支援	コンサル、営業支援	通年	埼玉県全域	10人	770
個人を対象とした教育、出版	IT 関連資格取得講座	通年	埼玉県全域	10人	80